

平成24年度食品健康影響評価技術研究成果発表会を開催しました！

平成24年8月2日
内閣府食品安全委員会事務局

食品安全委員会では、食品健康影響評価技術研究の成果の普及及び活用を促進することを目的に平成24年7月20日、平成23年度に終了した課題について成果発表会を開催しました。

研究課題番号 0905

メラミンによる腎不全の発生機序の解明と健康影響評価手法の確立 [PDF : 3,004KB]

郡 健二郎（こおり けんじろう）



名古屋市立大学大学院医学研究科

腎・泌尿器科学分野 教授

1973年3月大阪大学医学部卒業。

1993年9月名古屋市立大学教授 医学部泌尿器科。

2001年4月名古屋市立大学病院長(兼任：2003年3月まで)。

2003年4月名古屋市立大学大学院医学研究科腎・泌尿器科学分野教授(現職)

2005年4月名古屋市立大学大学院医学研究科長

・医学部長(兼任：2009年3月まで)。

2004年11月 日本医師会医学賞受賞。2008年5月紫綬褒章受章。

所属学会：日本泌尿器科学会理事、日本尿路結石症学会理事長。

研究課題番号 0904

日本沿岸海域における熱帯・亜熱帯性魚毒による食中毒発生リスクの評価法の開発

[PDF : 954KB]

足立 真佐雄 (あだち まさお)



高知大学教育研究部自然科学系農学部門教授
京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了 博士（農学）。
1994 年日本学術振興会・特別研究員、
1995 年に高知大学農学部講師として赴任し、
助教授を経て、2005 年より現職。
2005 年より愛媛大学大学院連合農学研究科兼任。
2005 年に、米国モンレー湾水族館附置研究所(MBARI)に留学。
研究領域は、海洋環境微生物学(とりわけ有害・有毒な微細藻に
関わる研究や微細藻類の有効利用に関わる研究など)、
マリンバイオテクノロジー。

研究課題番号 0906

アルキルシクロブタノン類を指標とした照射食品の安全性解析 [PDF : 853KB]

古田 雅一 (ふるた まさかず)



大阪府立大学地域連携研究機構

放射線研究センター量子線化学生物学研究室教授

京都大学農学系研究科修士課程修了（農学博士）。

1985 年大阪府立放射線中央研究所

（現、大阪府立大学地域連携研究機構放射線研究センター）入所。

2005 年大阪府立大学理学研究科生物科学専攻へ異動（助教授）、

准教授を経て2011年4 月より現職。

専門は放射線を含む殺菌生理科学、食品照射。

日本防菌防黴学会評議員、日本食品照射研究協議会理事、

放射線照射利用促進協議会理事。

研究課題番号 0903

かび毒・きのこ毒の発生要因を考慮に入れたリスク評価方法の開発 [PDF : 1,665KB]

小西 良子 (こにし よしこ)



国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部長

東京大学農学系研究科博士課程修了（農学博士）。

1986 年国立予防衛生研究所（現、国立感染症研究所）入所。

2002 年国立医薬品食品衛生研究所へ異動、2007年4 月より現職。

専門は食品衛生学、マイコトキシンの毒性、分析法およびリスク評価。

食品安全委員会カビ毒・自然毒専門調査会専門委員、

厚生労働省「薬事・食品衛生審議会委員」日本マイコトキシン学会長、

日本食品衛生学会理事、日本食品微生物学会理事、日本防菌防黴学会理事

研究課題番号 0902

ビスフェノールAによる神経発達毒性の新たな評価手法の開発 [PDF : 1,591KB]

遠山 千春 (とおやま ちはる)



東京大学大学院医学系研究科教授
University of Rochester博士課程修了 (Ph.D) 、
1981年国立環境研究所 (現、国立環境研究所) 環境保健部研究員、
2001年国立環境研究所環境健康研究領域長、
2005年より現職。研究領域は毒性学・環境保健学。
WHO、JECFA及びEFSAのTemporary Adviser。
環境省中央環境審議会等の専門委員。
現在、日本衛生学会理事長、日本毒性学会理事、
環境ホルモン学会理事及びToxicological Sciences Associate Editor。